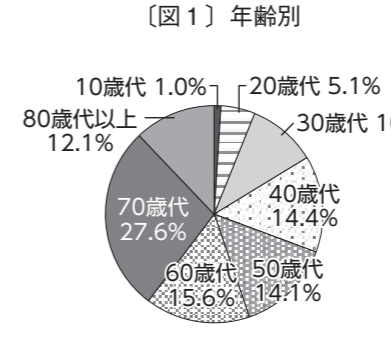


# 次期熊野町総合計画に関する 住民意識調査の結果を報告します

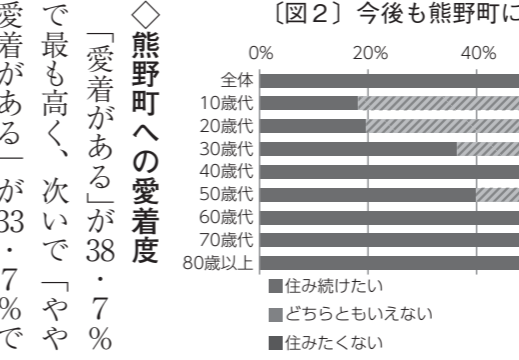
新たに第6次熊野町総合計画を策定するにあたり、住民の皆さんの意見・意向を把握し、まちづくりに活かすため、住民意識調査を実施しました。その調査結果の概要をお知らせします。また、詳細結果については、町のホームページに掲載しています。

《調査の概要》

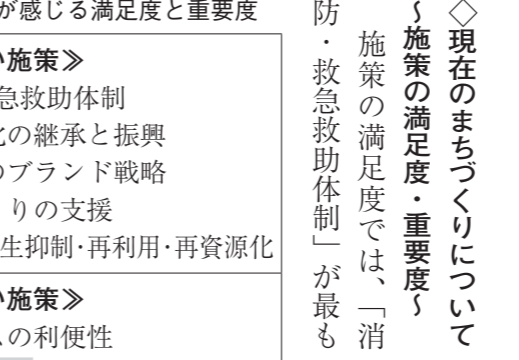
《調査期間》	令和元年10月10日～23日
《調査対象者》	無作為に抽出した18歳以上の住民2,500人
《調査方法》	郵送調査
《回収状況》	回収数1,140件 回収率45.6%



◇回答者の属性  
この調査の回答者の性別は、男性44・2%、女性は55・8%で、年齢別の内訳は、70歳代の割合が最も高く27・6%、次いで60歳代が15・6%、40歳代が14・4%でした。(図1参照)



年代別では、40歳代の【住みたい層】は79・9%で他の年代より高くなっている一方、20歳代では55・3%と低くなっています。(図2参照)



◇現在のまちづくりについて  
施策の満足度・重要度  
施策の満足度では、「消防・救急救助体制」が最も

高く、次いで「伝統文化の継承と振興」、「熊野筆のブランド戦略」などと続いています。  
一方、施策の不満足では「路線バスの利便性」、「道路の整備」が高くなっています。  
施策の重要度では、消防、救急、医療、防災関係のほか、道路交通、防犯などが高くなっています。  
重要度が高いのに不満足の高い施策となっている「医療体制・医療サービス」の充実、「道路の整備」などは、重点的な取組の推進や改善を検討する必要があります。(図4参照)

総合計画とは、本町の今後の発展方向と実施する施策を明らかにするもので、町の最上位計画に位置づけられます。

◇熊野町への定住意向  
「住み続けたい」の割合が49・6%と最も高く、次いで「当分は住みたい」が24・1%で、これらを合わせた【住みたい層】は73・7%でした。

◇熊野町への愛着度  
「愛着がある」が38・7%で最も高く、次いで「やや愛着がある」が33・7%で続いています。これらを合わせた【愛着層】は、どの年代においても6割を超えています。(図3参照)

【図4】あなたが感じる満足度と重要度

《満足度の高い施策》	1位 消防・救急救助体制 2位 伝統文化の継承と振興 3位 熊野筆のブランド戦略 4位 健康づくりの支援 5位 ごみの発生抑制・再利用・再資源化
《不満度の高い施策》	1位 路線バスの利便性 2位 道路の整備 3位 空き家・荒地対策 4位 商業施設の充実 5位 医療体制・医療サービスの充実
《重要度の高い施策》	1位 消防・救急救助体制 2位 医療体制・医療サービスの充実 3位 地震・風水害などの防災・減災対策 4位 道路の整備 5位 防犯・交通安全対策

◇今後のまちづくりについて  
各分野において力を入れていくべきこと(複数回答)(図5参照)

◇熊野町への定住意向  
「住み続けたい」の割合が49・6%と最も高く、次いで「当分は住みたい」が24・1%で、これらを合わせた【住みたい層】は73・7%でした。

◇熊野町への愛着度  
「愛着がある」が38・7%で最も高く、次いで「やや愛着がある」が33・7%で続いています。これらを合わせた【愛着層】は、どの年代においても6割を超えています。(図3参照)

◇現在のまちづくりについて  
施策の満足度・重要度  
施策の満足度では、「消防・救急救助体制」が最も

高く、次いで「伝統文化の継承と振興」、「熊野筆のブランド戦略」などと続いています。  
一方、施策の不満足では「路線バスの利便性」、「道路の整備」が高くなっています。  
施策の重要度では、消防、救急、医療、防災関係のほか、道路交通、防犯などが高くなっています。  
重要度が高いのに不満足の高い施策となっている「医療体制・医療サービス」の充実、「道路の整備」などは、重点的な取組の推進や改善を検討する必要があります。(図4参照)

◇保健・医療・福祉分野  
「夜間・休日診療や救急医療体制の充実」が最も高くなっています。年代別にみると、20～30歳代では、2番目に「乳幼児医療費助成」が最も高く、60歳以上では「国民健康保険や後期高齢者医療の安定運

◇熊野町への定住意向  
「住み続けたい」の割合が49・6%と最も高く、次いで「当分は住みたい」が24・1%で、これらを合わせた【住みたい層】は73・7%でした。

◇熊野町への愛着度  
「愛着がある」が38・7%で最も高く、次いで「やや愛着がある」が33・7%で続いています。これらを合わせた【愛着層】は、どの年代においても6割を超えています。(図3参照)

◇現在のまちづくりについて  
施策の満足度・重要度  
施策の満足度では、「消防・救急救助体制」が最も

高く、次いで「伝統文化の継承と振興」、「熊野筆のブランド戦略」などと続いています。  
一方、施策の不満足では「路線バスの利便性」、「道路の整備」が高くなっています。  
施策の重要度では、消防、救急、医療、防災関係のほか、道路交通、防犯などが高くなっています。  
重要度が高いのに不満足の高い施策となっている「医療体制・医療サービス」の充実、「道路の整備」などは、重点的な取組の推進や改善を検討する必要があります。(図4参照)

【図5】今後どのような点に力を入れていくべきだと思いますか

《保健・医療・福祉の分野》	
1 夜間・休日診療や救急医療体制の充実	58.9%
2 国民健康保険や後期高齢者医療の安定運営	56.3%
3 高齢者や障害者の移動手段の確保	50.0%
《教育・文化の分野》	
1 いじめ、不登校対策の充実	55.4%
2 教員の資質の向上	49.9%
3 子どもの基礎学力の向上	45.8%
《都市基盤・生活環境などの分野》	
1 狭い道路の解消、歩道の整備など、安全に通行できる道路の整備	73.8%
2 バス等移動交通手段の確保	66.2%
3 交通安全・防犯対策の推進	44.9%
《防災・減災の分野》	
1 災害時における確実な情報伝達手段の確保・充実	62.4%
2 排水路の整備や、ため池の改修・補強	40.1%
3 緊急車両の通行や安全に避難できる道路の整備	39.8%
《産業の振興に向けて》	
1 企業誘致の取組など新たな産業の振興	38.0%
2 地元商店の活性化	37.0%
3 熊野筆のPRやブランド戦略の推進	32.5%

◇これからのまちづくりに  
おいて、活かしていきたいこと、大切にしていきたいことは何ですか(複数回答)  
「熊野筆」が41・7%で最も高く、次いで「広島市・呉市・東広島市に隣接した位置条件」が41・1%、「熊野の歴史・文化・産業」が39・3%で続いています。

◇熊野町が将来どのようなまちであればよいと思いませんか(複数回答)  
「子どもを育てる環境や教育環境が整ったまち」が46・2%で続いています。



住民意識調査の結果や、ワークショップで出た多くの意見・提案をもとに、次期総合計画の各施策の方向性や取組みを検討していくとともに、実現可能なものについては事業化に向けて検討するなど、協働によるまちづくりに取り組んでいきます。  
図総務課 ☎820・5601